

## 文庫めぐり

(1)

## 国立公文書館—内閣文庫

〔来歴と概要〕 国立公文書館内閣文庫には多量かつ良質の古医学書が所蔵されている。その基幹は江戸時代の紅葉山文庫蔵書・江戸医学館蔵書・昌平坂学問所蔵書に由来する。

紅葉山文庫(楓山秘府)は徳川家康の蒐集から始まり、家光の時代からは書物奉行が置かれ、学問を積極的に奨励した吉宗、そして近藤重蔵が書物奉行となった文化文政間を経て収蔵量を増し、幕末頃には十万冊に達していたといわれる。將軍家に対し、諸大名・公卿・幕臣・僧侶・医師からは貴重な蔵書が献上された。国内の新刊書は献上が義務づけられていたし、中国で出版されるいわゆる唐本は長崎を通じて輸入され、優先的に紅葉山文庫に入るシステムになっていた。中国からの舶載書は新刊に限らず古書もあったし、文庫より中国に発注することも行われた。利用は幕府関係者に限定されていた。

江戸医学館は多紀家の主宰した中央の医学研究教育機関で、多紀家の私塾・躋寿館が寛政三年(一七九一)に官営となったものである。同館には多紀家(聿修堂)が精力を注いで広く蒐集した医葉関係の善本が集積され活用された。

昌平坂学問所(昌平塾)はもと林羅山およびその子孫の私

塾であったが、寛政九年に幕府の儒学教育機関(大学)となった。その蔵書中には多数の医学書が含まれていた。

これら紅葉山文庫・江戸医学館・昌平坂学問所の蔵書は幕府崩壊にともない明治新政府に引き継がれた。紅葉山文庫蔵書は修史館文庫・太政官文庫を経て明治十八年に内閣文庫となった。江戸医学館・昌平坂学問所の蔵書の多くは明治五年に書籍館、同八年に官立浅草文庫となり、同十七年に太政官文庫に統合され、内閣文庫となった。ただしその一部には焼失したり、国内外に流出したものもある。明治二十四年には貴重書三万冊が宮内省図書寮に移されたが、その他はそのまま戦後に至り、昭和四十六年に新設された国立公文書館の一主要部として現在公開されている。

〔蔵書目録〕 『内閣文庫漢籍分類目録』、同文庫編、一九五六。『内閣文庫国書分類目録』上・下、同文庫編、一九七四・七五。

〔所在地〕 〒102-0091東京都千代田区北の丸公園三一二。

○三—三二—四—〇六二一。

〔利用法〕 閲覧は満二十歳以上で学術研究または調査を目的とする者にはだれでも許可される。印鑑が必要。閲覧許可証を発行してもらえば一年間有効。複写はマイクロフィルムからの焼付、もしくはポジフィルムにて交付される。

(小曾戸 洋)